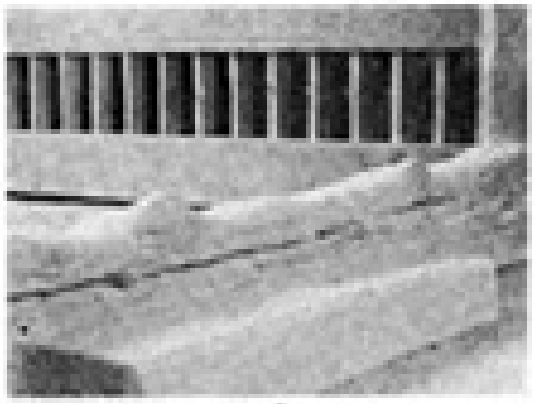
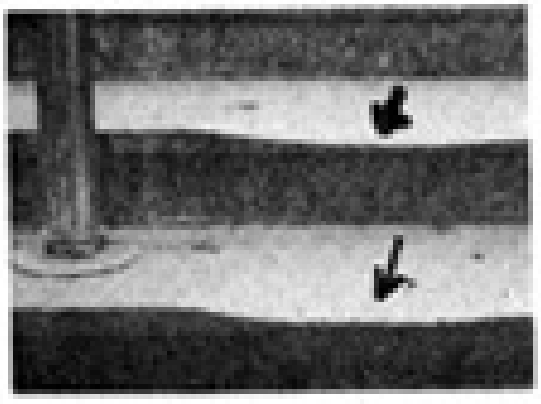


C6－1 古い建物の場合

a）法隆寺南大門。二体のにせき人の間に横たわる梁である。これの時代の名称は知らないが、建立当時のものであるならば歴史に名を残した人もそうでない人も手垢汚れの引きにわたってこの上を通ったわけで感慨つ尊厳に歴史の証言をきく思いがする。

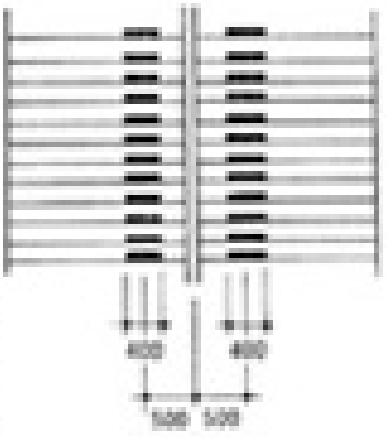
b）これも法隆寺、金堂の後開廊と称し、床は瓦であちその銘摩瓦の使方さに驚く。もっともこれも創建当時のものかどうか不勉強で知らないが、もしそうだとすれば、今の一流メーカーのクリンカータイルも脱帽である。



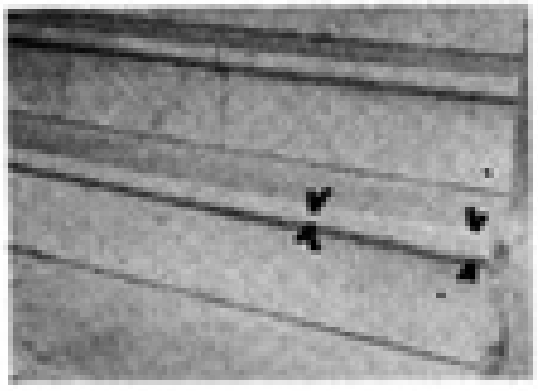
（a－1）

C6－2 階段の型例

a）C6－1図は人通りのとくに激しい商店の階段。幅の広い階段だが（a－2）図のように手摺近いに手摺から50cmくらい離れた所を中心に約30cm幅が極端にすりへっている。



（a－2）



b）は大阪石（西田邸）階段の踏板のすりへり人通りはそう多いで西はないが大正時代の建物。

すりへりは仕方がないが、縁上げ廊下とる3段の板からなり、この幅広い板にクラックー つ入っていないのは驚異に値する。当時名を売った職人の建物ではあるが、材料の所様、工法の入念さ、ともに先人の執念といったものを感じる。